

少花粉種子（ヒノキ）の生産工程

岡山県農林水産総合センター 森林研究所 林業研究室

背景

現在

人工林の多くが
伐採適期

伐採や木材利用促進による
花粉飛散の低減

少花粉スギ・ヒノキ苗木による
植替えの促進

確実な再生林の推進のために、少花粉品種の種子の増産が必要！

採種工程

① ジベレリン処理

少花粉品種は自然状態では着花しにくいいため、種子を採取する前年の7月～8月にジベレリン処理を行い、球果の結実を促進します



少花粉ヒノキへのジベレリンの包埋処理



翌年に着果した球果

② 虫害防除

球果がカメムシに加害されると、種子の発芽率が低下するため、7月頃に袋掛けを行い、カメムシによる吸汁被害を防ぎます



袋掛けしたヒノキの枝



球果を加害するカメムシ

③ 球果の採取

手作業のほか、バリーピッカーなどを用いて、採種木から球果を採取します



バリーピッカー



バリーピッカーを用いたヒノキの球果の採取

④ 混入物の除去

選別機等を使用し、採取した球果から混入物(葉、果柄)を除去します



精米機を用いた混入物の除去



粒径選別機(R7年度導入)

⑤ 乾燥

球果を1週間程、種子乾燥機で乾燥させます
乾燥すると、球果が開裂し、種子が得られます



種子乾燥機
(R7年度1台追加導入)



乾燥した球果

⑥ 精選作業

粗精選機を使用し、重い種子(発芽率が高い)と軽い種子(発芽率が低い)に精選します

充実種子選別機を使用し、コンテナ育苗用の高発芽種子を選別します



粗精選機による精選



充実種子選別機による
高発芽種子の選別



←岡山県森林研究所ホームページ
ヒノキ種子生産工程(採種園)



←岡山県森林研究所ホームページ
少花粉スギ・ヒノキコンテナ育苗生産マニュアル